三重県議会議員
いしがき　ともや
石垣 智矢
県政活動報告

TOMO-NO-WA
智の輪
～ 地域の輪が次の時代を創る ～

Vol.2　2021（令和3）年　春号

編集・発行責任者 / 石垣智矢　住所 / 三重県員弁郡東員町北大社801
TEL・FAX / 0594-41-2477　E-mail / toinman1105@gmail.com



新型コロナウイルス感染症対策関連の予算額　総額 1,472億円

県民の命を守り抜く感染拡大防止に関する費用　1078億円
医療・検査体制の整備、医療機関・保健所の体制強化、介護施設や学校での感染防止対策など

地域経済の再生・進化・継続　264億円
セーフティネット資金やコロナ危機対応補助金、中小企業等の資本強化、農林水産業や食産業の活性化など

安全安心な暮らしの再構築　95億円
ひとり親家庭や学生支援、相談体制の充実、地域公共交通の維持・確保など

新たな人材育成への転換　30億円
学びの継続やオンライン授業の充実、リモート環境の整備、デジタルの活用など

雇用の維持と新たな働き方など　5億円
就職への支援、テレワークやワーケーションの推進など

令和三年度 新型コロナウイルス感染症対応の当初予算　512億円
新型コロナウイルス感染症の拡大防止（入院病床や宿泊療養施設の確保、ワクチン接種体制の構築、検査体制の充実、相談窓口支援など）、傷んだ県内経済や産業の再生および活性化、分断と不和からの脱却に向けた人権施策など

石垣智矢の１年間の動き

◆新型コロナウイルス感染症に関する対応マニュアル検討プロジェクト会議
委員として、三重県議会「新型コロナウイルス感染症に関する対応マニュアル」を策定。

◆環境生活農林水産常任委員会
副委員長として、森林づくり条例、全国植樹祭誘致の決議案を全会一致で可決へ。

正副委員長会議を三重県議会初のオンライン会議で開催。


オンライン会議の様子

◆議会改革推進会議
監事として議会改革に積極的に取り組み、感染症や大規模災害等の緊急時に、オンラインで委員会が開催できる委員会条例の改正につなげました。

◆政策担当者会議
委員として、県内の地域鉄道会社などと意見交換を行い、議会から意見書を国に提出することに決定しました。


地域鉄道会社との意見交換

◆スマート議会勉強会
メンバーとして、議会のデジタル化に取り組み、議事堂内全フロアにWi-Fi設置、全議員へのタブレット配布（貸与）につなげました。

◆差別解消を目指す条例検討調査特別委員会
計７回の参考人招致（三重県議会では過去最多）を行い、あらゆる差別解消に向けた検討を現在も進めています。


感染症対策のための家庭用隔離シェルターの視察

全国植樹祭を誘致へ

全国植樹祭は、我が国の社会経済情勢や森林・林業をめぐる情勢が変化する中で、緑豊かな国土を形成していく重要な役割を果たしています。

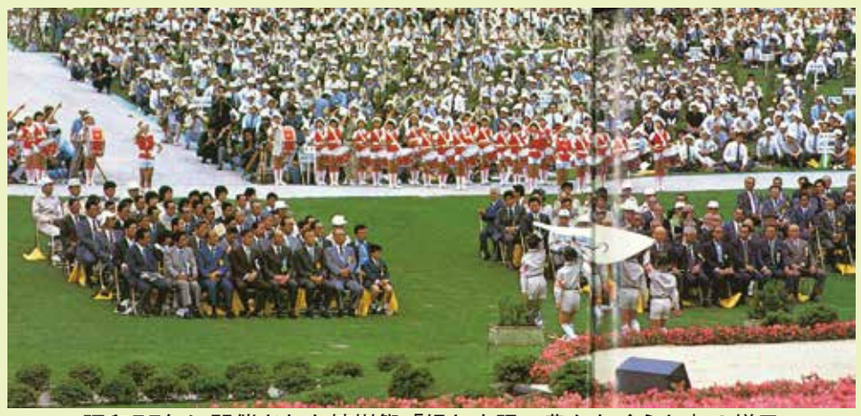
本県では、昭和55年に「緑と太陽　豊かなくらし」をテーマに全国植樹祭が開催されて以来、40年以上が経過しており、本県の森林を取り巻く状況は大きく変化しています。

現代に生きる私たちは、先人により守り育てられてきた緑豊かな自然を次世代へ引き継ぐ使命があります。全国植樹祭を再び本県に誘致することは、森林や身近にある緑の大切さ、豊かな自然からもたらされる恵みへの感謝、そして緑と共生した持続可能で豊かな社会を築いていくための機運を高める上で極めて意味深いものとなります。

よって、本県議会は、全国植樹祭を誘致することに決議いたしました。






昭和55年に開催された植樹祭「緑と太陽　豊かなくらし」の様子

三重とこわか国体　2021年 9月25日(土)～10月5日(火)
三重とこわか大会　2021年 10月23日(土)～10月25日(月)



withコロナ時代に新しい国体・大会のモデルを三重から示す！

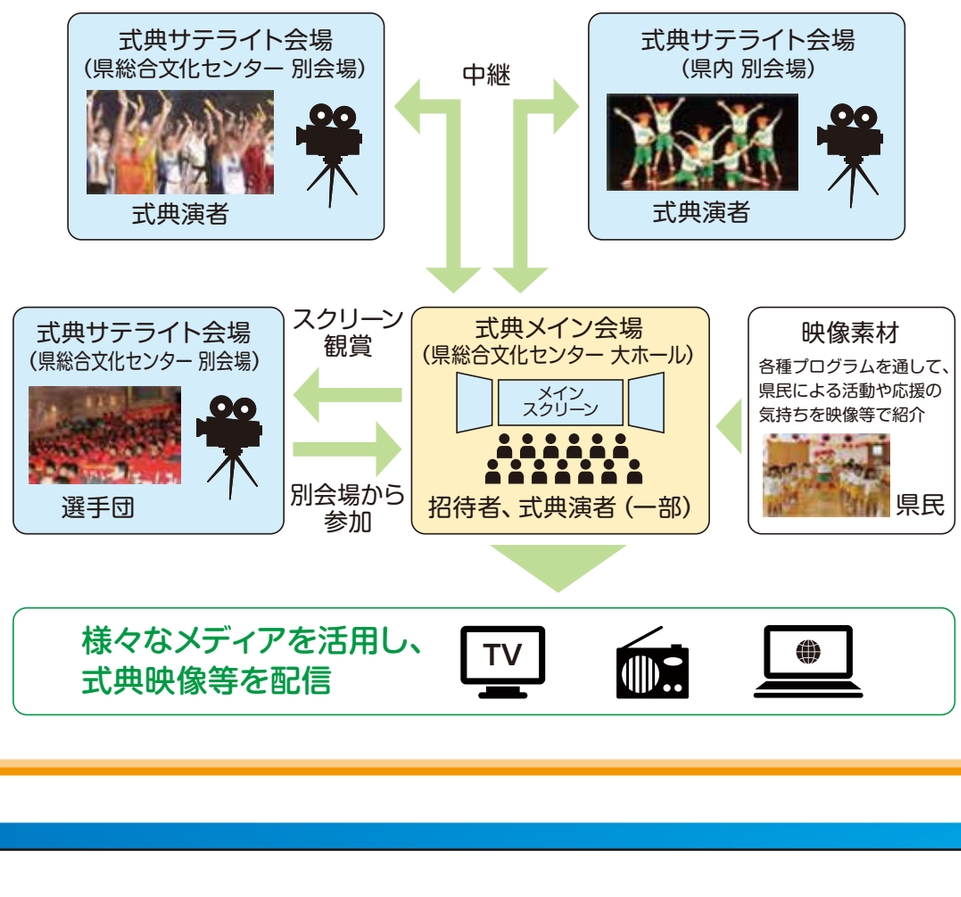
安全・安心に開催できる コロナ禍における新しい大会運営を目指して

①選手と式典の分離
②デジタル技術を活用し感動を創出
→ 従前の例にとらわれない三重県モデルの開・閉会式

新たな開・閉会式のスタイル
「オンライン式典」の実施
式典時間を先県平均約4.5時間から**約1.5時間**に短縮

これまでの大会との比較

観覧者数（国体 開会式）	選手参加者数（国体 開会式）	式典関係者数（国体 開会式）
■先県平均 約12,000人 ▶ **約300人**	■先県平均 約4,100人 ▶ **約250人**（サテライト会場）	■先県平均 約4,900人 ▶ **約250人**（サテライト会場含む）



石垣ともや一般質問

① 新型コロナウイルス感染症によって大きな影響を受けた観光業の立て直しについて
② CSF（豚熱）及びASF（アフリカ豚熱）対策について
③ 男性の育児参画について
④ 令和8年度全面供用開始予定となった東海環状自動車道について

①新型コロナウイルス感染症によって大きな影響を受けた観光業の立て直しについて

問　今年度からスタートしたみえ県民力ビジョン・第三次行動計画や三重県観光振興基本計画は、海外からの旅行客のインバウンド施策が主体です。国内・県内旅行者を対象とした施策による観光業の中長期的な立て直しをどのように取り組みますか。

雇用経済部観光局長

答　県内観光産業の再生は、三重県の観光地が安全・安心であることが大前提であるため「県内観光事業者向けガイドラインの手引き～安全安心な観光の実現に向けて～」を作成・公表しました。
国内観光誘客の取り組みは、県内→近隣県→国内へと段階的に進めたいと考えています。まずは、県内バス事業者や旅行業者を支援し、県内の観光消費拡大につなげていきます。
また、愛知県や岐阜県と連携し、高速道路を活用したドライブプランやスタンプラリーなどを検討し、国のGo To トラベルキャンペーンに合わせ、県独自の宿泊割引事業や大規模観光キャンペーンによる誘客を進めていきます。

②CSF（豚熱）及びASF（アフリカ豚熱）対策について

問　国では、令和2年２月・４月に家畜伝染病予防法が改正されましたが、CSFやASFの感染拡大防止に向けて、家畜伝染病予防法の改正も踏まえ、県内の養豚農家に寄り添いながら今後どのように対応していきますか。

三重県知事

答　CSF及びASF対策を一層強力に進めるため、令和2年度からCSF対策プロジェクトチームの発足、地域ごとに家畜防疫推進チームを立ち上げるなど、各養豚農場の状況に合わせた支援をしています。今後は、経口ワクチンの散布箇所倍増などによる年間を通じたイノシシ捕獲強化、地域ごとの飼養衛生管理マニュアルの作成や必要な施設整備など、養豚農家への支援および適切な指導を行っていきます。
また、CSFの発生農家が生産を開始した豚の出荷の際には、販売拡大などに向けても積極的に取り組みます。

③男性の育児参画について

問　政府は、子どもが生まれた男性の国家公務員に１か月以上の育児休暇の取得を促す制度を令和2年度からスタートさせる方針を決定しました。また、厚生労働省が発表する21世紀成年者縦断調査では、男性の家事や育児参加時間が長いと第２子以降の出生割合が増えるという調査結果も発表されています。本県では、鈴木知事を先頭に男性の育児参画の取り組みが進められていますが、制度ではなく風土をつくるための取り組みを今後どのように進めていきますか。
また、中長期的な男性の育児参画を考えるのであれば、高校生や大学生など、次の親になる世代「NEXT親世代」への意識啓発が重要ですが、どのような対策を行いますか。

三重県知事

答　男性の育児参画が進むためには、個人の意識向上、制度の充実、男性育児を応援する風土づくりが重要です。意識向上は、平成26年度にみえの育児参画プロジェクトを立ち上げ、育児男子トークなどの子育ての楽しさを啓発する取り組みを進めてきました。企業などの風土づくりは、みえのイクボス同盟加盟数は700を超えて全国1位、男性の育児休業取得率も7.6%で全国平均を上回りました。
今後は、県民に機会を通じた啓発、企業や団体等のイクボス普及拡大、職員の育児休業促進のノウハウの情報提供などに取り組みます。
また、育児経験のある男性と若者男性が交流するウェブコミュニティーを構築し、若者の育児参画の意欲を高めるなど、男性の育児参画が当たり前となる風土づくりを図ります。
NEXT親世代への取り組みは、これまで行ってきた企業管理職の方々とのトークとは別に、男性の育児参画の視野を広げるという観点から前向きに検討します。

④令和8年度全面供用開始予定となった東海環状自動車道について

問　令和８年度供用開始予定となった東海環状自動車道の1日も早い全線開通に向けて、どのように国に働きかけていきますか。新型コロナウイルス感染症による工事への影響は。今後、東員・大安・北勢インターチェンジ（仮称）につながるアクセス道路をどのように整備していくきますか。

県土整備部長

答　国などへの働きかけは、東京で建設促進期成同盟会による促進大会を開催するとともに要望活動を実施し、また沿線市町や地元企業等と合同で要望活動を実施しました。今後もあらゆる機会を捉え国に強く働きかけます。感染症の工事への影響は小さく、三重県内区間約20件の工事で一時中止や工程の遅れはありません。アクセス道路の整備は、東員・大安インターチェンジでは、国道365号や国道421号の4車線化とバイパス整備に取り組み、員弁川を渡る橋梁工事を実施していきます。
北勢インターチェンジ（仮称）へのアクセス道路は、県道北勢多度線の4車線化を令和3年度中の供用開始を目指して整備を進めていきます。

一般質問のその後…

①宿泊割引や観光地での消費喚起事業を含む県民限定の観光キャンペーンなどが行われました。
また、県内の学校が県内で修学旅行を実施する際の支援等が行われ、令和三年度も継続で実施される予定です。

②CSF対策について
１月の補正予算にて、県内養豚農場が実施する小動物も含めた野生動物侵入防止対策等に必要な費用支援対策（約7858万円）が設けられました。

③男性の育児参画
鈴木知事と宇治山田商業高校2年生の皆さんが、親になることや子育てについて語り合う「NEXT親世代トーク」が開催されました。


▲③男性の育児参画


▲④順調に工事が進んでいます。
（国道421号いなべ大橋橋梁上部工工事）

おいしい伊勢茶の淹れ方教室を開催しました

本県のお茶は、静岡県、鹿児島県に次ぐ生産量全国第３位を誇る特産品です。伊勢茶の消費拡大とさらなる茶振興を目的に、三重県議会・三重県茶業会議所共催でおいしい伊勢茶の淹れ方教室を行いました。

また、飯南高校美術部の生徒たちがお茶ラテアートを披露してくれました。





主な県内視察調査活動報告

◆高尾畜産および松阪肉事業協同組合
（松阪市）７月20日

三重ブランドの一つである松阪牛に関して、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う畜産業の流通現場への影響と課題等について調査を行いました。

◆三重県漁業協同組合連合会牟婁事業所、尾鷲物産株式会社（尾鷲市）８月７日

地元漁港と水産業の六次産業化を手がける事業者にて、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う水産業の生産・流通現場への影響と課題等について調査を行いました。

◆三重リサイクルセンター（伊賀市）９月11日

廃棄物処理法や各種リサイクル法に対応可能な三重リサイクルセンターへ、独自の資源循環システムや地域との共存、災害時の廃棄物対応について調査を行いました。













ごあいさつ

県議会議員となり、早いもので２年が過ぎようとしています。

この１年、新型コロナウイルス感染症によって、私たちの日々の暮らしや経済は大きな影響を受けました。

今も最前線の現場で懸命に戦い続けて下さっている医療従事者の皆さまに、あらためて敬意と感謝を申し上げます。

そして、感染症によってお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患された方々にお見舞い申し上げます。

感染症対策においては、緊急警戒宣言の発出や飲食店等の休業要請などで、一定の成果を得ることができました。県民の皆さま一人ひとりのご協力により、「三重の力」が発揮されたと思います。

今後も感染症の一日も早い収束に向けて、私も微力ながら全力で取り組んでまいります。

私事ではありますが、令和２年７月２１日に待望の第一子が誕生しました。かわいい女の子です。

今後はいなべ市員弁郡選出の県議会議員として、また一児のパパとして、三重県のさらなる発展のために尽力させていただく所存です。

これからも県政に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

石垣　智矢

お気軽にお問い合せ下さい

三重県議会議員 石垣 智矢（ともや）事務所

〒511-0257 三重県員弁郡東員町北大社801番地

TEL/FAX：0594-41-2477　E-mail：toinman1105@gmail.com

Facebookにて日々の活動を配信中→

SHIYUANTOMOYA

URL：ishigaki-tomoya.com